

## 早生温州のハウス栽培に関する研究

(第3報) 被覆加温時期が熟期・品質に及ぼす影響について

諏訪三徳・徳留秀昭

(鹿児島県果樹試験場)

SUWA, M. and TOKUDOME, H.

Studies on the Growing in Plastic Green House of Early Satsuma  
(3) Influence of Different Time of Plastic Covering and Warming  
on Fruit Maturation and Quality

ビニール被覆並びに加温時期の早晚が熟期や品質に及ぼす影響について検討したので、その概要を報告する。

## 1. 試験方法

宮川早生(11年生) 300㎡のハウスを供試し、1月区は10日にビニール被覆し30日から加温開始、2月区は15日に被覆し24日から加温開始とした。温度管理は1月区は被覆後10℃を7日間、15℃を6日間経過後加温20~30℃とし、2月区は10℃を4日間、15℃を3日間経過後加温開始とした(出蕾~開花期間は15~20℃)。換気については、換気扇(径1m)2基と、吸気口2カ所、ビニールの開閉によった。

灌水は7~10日間断で1回10~15mmを多孔ビニールパイプで全面灌水した。

## 2. 試験結果および考察

1) 発芽最盛期は、1月区は2月3日、2月区は3月2日で、被覆後徐々に昇温し加温開始までの期間を長くした1月区は24日間を要したが、温度を早くから上昇させた2月区は15日間で発芽盛期に達した。露地では4月6日が発芽盛期であった。

2) 開花は、1月区は2月23日、2月区は3月25日で、発芽後それぞれ20日、23日間を要し、2月区がややおくれたが、これは出蕾から開花期の温度を少しおとして奇型果防止をはかったためであり、その差は少ない。

3) 熟期と品質 1月区の果実は7月上旬で、もえぎ色に退色しはじめ、果肉色も進み、糖度7.2度クエン酸1.2%となり出荷可能な熟度に達した。7月中旬に全体の約60%、8月上旬には約75%を収穫できた。採収果実は、もえぎ色から2分着色果で最終収穫時の糖度は7.8、クエン酸0.7%であった。

2月区は、8月中旬で、もえぎ色となり、8月20日で

糖度7.1、クエン酸1.1%となった。8月末までに約55%を収穫したが採収果実は、もえぎ色が主体で、糖度7.2、クエン酸0.9%であった。2月区は、1月区に比べて、熟期が約1ヵ月おくれて、着色不良、果皮もやや粗で、糖度も低く食味が劣った。これは2月区がかなり高温で成熟期を迎えたためではないかと考えられる。

以上概要を述べたが、発芽、開花を早めて熟期を促進し、品質の向上をはかるためには、被覆時期を早め、被覆後の加温開始までのならし期間を7日程度に短くすることが必要である。また本県のように夏期高温で、しかも昼夜間の温度差の少ない地域では着色が悪く、糖の上昇も低く、酸の減少が早いので、盛夏期前に熟期に達し採収を終るよう被覆、加温開始の時期を1月中旬までにはもってくる必要があると考えられた。

第1表 発 芽 開 花 期

	発 芽			開 花		
	始	盛	終	始	盛	終
1月被覆区	1・30	2・3	2・6	2・20	2・23	2・26
2月被覆区	2・26	3・2	3・7	3・22	3・25	3・28
露 地	4・2	4・6	4・12	5・3	5・5	5・9

第2表 果 実 の 品 質

		% <sub>9</sub>	% <sub>0</sub>	% <sub>11</sub>	% <sub>1</sub>	% <sub>0</sub>	% <sub>11</sub>	% <sub>0</sub>	
		一被覆 月区	糖 度 クエン酸 糖 酸 比	7.3 2.17 3.3	7.2 1.87 3.8	6.8 1.24 5.4	8.0 1.19 6.7	7.8 1.08 7.2	7.2 0.72 10.0
二被覆 月後	糖 度 クエン酸 糖 酸 比			6.4 2.65 2.4	7.0 2.05 3.4	6.6 1.96 3.3	7.1 1.28 5.5	7.1 1.11 6.4	7.2 0.91 7.9